

令和7年度 1学期始業式 式辞（どちらのタイプか）

桜咲くこの季節は、新たに転入・入学、新年度始業の季節でもあります。

先日、定期人事異動によって離任された隼工にご尽力くださいました先生方を、感謝をもってお送りしましたが、本日、先ほどご紹介しご挨拶いただきました、欠席の先生方を含む10名の経験豊富な先生方を新たにお迎えし、大変心強く感じているところです。

また皆さんと心新たに今年度をスタートすることができることを大変嬉しく思います。

さて、今日からそれぞれ学年も上がり新年度を迎えました。皆さんには、昨年度3学期終業式にて「新学年で新たにチャレンジする目標を立てて、始業式を迎えてください。」と、お話ししましたが、目標を立てることができたでしょうか。

最終学年となる3年生にとっては、2～3ある目標の中、その多数が進路決定を果たすことにあると思いますが、これまでに積み重ねた他者に対する敬意の念と、実現のための方策を自分の特性をよく知った上で、社会で通用する思考・表現する力を得ることが肝要です。更に計画に則り行動力を高め、「プラスαの努力」を普段から「意識」して欲しいと思います。

学年中堅となる2年生にとっては、これまで学習した基礎的知識・技術の応用・発展と、部活や家庭での役割を自らが考え、行動することで自らが存在価値を高め、社会性を身に付けることが、将来の進路に繋がると、「意識」して生活して欲しいと思います。

こうして皆さんは、社会に出るための「生きる力」を身に付けていくわけですが、そのプロセスにおいて、困難に出会った際、人は2つの「考える」タイプがあると聞きます。

皆さんはどちらのタイプでしょうか。

一つは、「できない言い訳」を考えるタイプで、もう一つは「できる方策」を考えるタイプです。

どちらが、生産性が高くなるかは、皆さんも分かるとおりで、「できる方策」を考えるタイプです。

皆さんの着地点でもある社会において、例えばトヨタ自動車では、企業成長のために課題を解決していく過程で、起こった事象に対し「なぜ」を5回、なぜ怪我をしたのか。なぜ機械が作動していたのか。なぜそのことに気がつかなかったのか。なぜ疲労していたのか。など、その理由を深掘りし、本当に必要な対応策を「カイゼン」として考えるそうです。

このトヨタ式カイゼンは、日本企業のみならず世界的にも活用され「improvement」ではなく、アルファベットの「Kaizen」で表記されるほどです。これらのことから分かるように、社会人へと成長することを「意識」して「できる方策」を考える生活を送って欲しいと思います。

結びに、皆さんが、生きる力を身に付けて、自らの特性で社会に貢献することを目標に、できることを増やせる一年となることを期待して、令和7年度1学期始業式の式辞といたします。